

## 論文審査の結果の要旨

報告番号	甲 第 1056 号	氏 名	金 井 圭 太
論文審査担当者	主 査 田 中 榮 司 副 査 宮 川 眞 一・駒 津 光 久		
(論文審査の結果の要旨)			
<p>自己免疫性膵炎 (AIP) はステロイド治療が奏功し臨床所見、画像所見、病理所見が改善することから急性期の病態と考えられてきた。しかし長期経過において、通常の慢性膵炎 (CP) と同様に膵石灰化を呈する症例が存在することが明らかとなり、AIP は長期経過で CP の画像所見を呈する病態に移行しうると考えられる。長期経過で AIP が CP で認められるように膵機能低下を来すか否かについては十分な検討がされていない。本研究は、AIP が CP と同様に長期経過で膵機能低下を来すか否かを、膵外分泌および内分泌機能の両面から明らかにすることを目的とした。1992 年～2014 年 8 月の間に 3 年以上経過観察が可能であった 92 例の AIP を非石灰化群 75 例と膵石灰化群 17 例の 2 群に分け、CP 群 47 例と健常コントロール群 30 例を対照とし、膵外分泌および内分泌機能について評価し比較検討した。</p> <p>その結果、「金井圭太」は以下の結論を得た。</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1. AIP 膵石灰化群は AIP 非石灰化群に比べ有意に観察期間が長く、PSL が有意に長期にわたって投与されていた。</li><li>2. AIP 両群は CP 群に比べ有意に高齢であった。</li><li>3. 便中エラスターゼ (FEC) 値は、膵疾患群では AIP 非石灰化群、AIP 膵石灰化群、CP 群の順で高値であり、AIP 非石灰化群と CP 群の間で有意差がみられた。</li><li>4. <math>FEC &lt; 200 \mu g</math> の高度膵外分泌機能低下を呈した症例の割合は、CP 群、AIP 膵石灰化群、AIP 非石灰化群の順に高く、CP 群と AIP 非石灰化群との間に有意差がみられた。</li><li>5. IRI および CPR は CP 群、AIP 膵石灰化群、AIP 非石灰化群の順に値が低く、低値例の頻度が高い傾向がみられた。</li><li>6. HOMA-<math>\beta</math> 値は IRI や CPR と同様の傾向を示した。</li><li>7. HOMA-R は AIP 両群で CP 群に比べ有意に高値であり、ステロイド治療に因るインスリン抵抗性の影響が示唆された。</li></ol> <p>今回の研究は、AIP の膵内分泌および外分泌機能を長期経過において評価した初の研究である。AIP 膵石灰化群は非石灰化群と比較し膵外分泌および内分泌機能障害が進行しており、AIP においても CP と同様に長期経過で膵機能の低下を来すと考えられた。AIP 膵石灰化群の膵機能障害は CP に比較して軽度であり、AIP では障害の進行が緩徐である可能性が示唆された。よって主査、副査は一致して本論文を学位論文として価値があるものと認めた。</p> <p>よって、主査、副査は一致して本論文を学位論文として価値があるものと認めた。</p>			